

## Q1 学びをつくり出すキャリア教育とは？



**A:各教科・領域の授業を通して、学びをつくり出す4領域8能力を高めることで、今学習していることに意義や価値を見出していく子どもを育てることで。**

### 1 キャリア教育のねらい

(1) キャリア教育とは  
〈手引Ⅰ:Q2参照〉

◇「キャリア教育」とは、  
子ども一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・能力や態度を育てる教育

(2) キャリア教育の  
ねらい  
〈手引Ⅰ:Q2参照〉

■ 上の定義をもとにキャリア教育を進めるには、次のようなねらいをもつことが大切です。

- 発達段階を意識した取組を通して、子どものキャリア発達を支援し、**社会人としての自立に必要な能力や態度を育む。**
- 職業的知識や技能の習得だけでなく、**望ましい勤労観・職業観の育成**を重視する。

社会人としての自立に必要な能力や態度の高まりは、子どもの勤労観・職業観の高まりにもつながり、上の2つのねらいは相関しています。(→Q2へ)

### 2 学びをつくり出すキャリア教育

(1) 学びをつくり出す  
〈手引Ⅰ:Q4参照〉

◇「学びをつくり出す」とは、  
子どもが自ら課題を見出し、その解決を通して「何を学んだか(学習内容)」と「どのように学んだか(学び方)」を明らかにし、自らの伸びや成長を価値付けし、次の学びに生かすこと。

(2) 学びをつくり出す  
子どもの姿  
〈手引Ⅰ:Q4参照〉



■ そこで、学びをつくり出す子どもの姿を、次のように設定します。

- 生活や学習上の課題を自ら見出し、見通しをもって(計画を立て)課題の解決に取り組む。
- 多様な情報(考え方)を吟味し、根拠を明確にして判断し、よりよい情報を選択する。
- 今学習していることの意義や自分にとっての価値を見出し、学ぶこと(働くこと)への充実感を味わい、次の学習への意欲を高める。
- 集団(社会)の中での自分の役割を理解し、協力して遂行することで自己有用感を味わうとともに、自他のよさに気づき、今後の自分の可能性を実感する。

1つめと2つめの姿はよりよい課題解決に必要な姿、3つめの姿は課題解決の価値付けに取り組む姿、4つめの姿は他者との関わりや学びを通じた成長の姿を表しています。

(3) 学びをつくり出す  
4領域8能力  
〈手引Ⅰ:Q4参照〉  
《第3章:資料1参照》

■ 学びをつくり出す子どもの姿をめざすために、育むことが必要な能力や態度が「学びをつくり出す4領域8能力」です。この学びをつくり出す4領域8能力は、国立教育政策研究所が示した「キャリア発達にかかわる4領域8能力」をもとに、学びをつくり出す視点で設定し直したものです。

学びをつくり出す4領域8能力		能力説明
領域説明		能力説明
学 び を つ く り 出 す	人間関係形成能力	<p>○他者のよさを尊重し、自己のよさを発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同して学習に取り組んでいく。</p> <p>【自他の理解能力】 ○自他の考え方や言動のよさを理解し、互いに認め合うことを大切にして学びを進めていく能力</p> <p>【コミュニケーション能力】 ○多様な集団の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の学びを進めていく能力</p>
	情報活用能力	<p>○学習することの意義や必要性を理解し、幅広く情報を活用して、課題解決の方法や自己の生き方を考え学習を進めていく。</p> <p>【情報収集・探索能力】 ○学習課題や自己の生き方に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、課題解決の方法や自己の生き方を考えていく能力</p> <p>【価値理解能力】 ○様々な学習活動の価値を感得することを通して、学習することの意義や必要性を理解し、今しなければならぬこと等を理解していく能力</p>
	設計遂行能力	<p>○夢や希望の実現に向けて、自己の役割や学習の目的を考え、見通しをもって活動や学習に取り組んでいく。</p> <p>【役割把握・認識能力】 ○学校や家庭・地域社会での多様な役割の存在及びその遂行の意義等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力</p> <p>【計画実行能力】 ○めざす目標や生き方及びその実現のための課題を明らかにし、その解決のための計画（見通し）を立てて実際の学習を進めていく能力</p>
	意思決定能力	<p>○自らの意思でよりよい判断を行い、主体的に課題に取り組んで、その成果を次の学習に生かしていく。</p> <p>【選択能力】 ○様々な考え方や行動等について比較検討したり、試行したりして、根拠を明らかにして判断し、よりよく選択していく能力</p> <p>【課題解決能力】 ○学習のねらいを達成するために、課題に積極的に取り組み、主体的に解決し、その成果を次の学習に生かしていく能力</p>

(国立教育政策研究所「キャリア発達にかかわる4領域8能力」をもとに作成)

■ これらの能力は、子どもの学習の「どのように学ぶか(学び方)」と強く関連しています。したがって、各教科・領域の授業の学習活動を通して「学びをつくり出す4領域8能力」を高めていくことが大切です。(→Q3、Q4へ)

### 3 高める能力の重点化

#### (1) 実態調査を分析し、高める能力を重点化する

<手引 I:Q7参照>

■ 「学びをつくり出す4領域8能力」は、8つの能力が独立したものでなく、相互に関連しています。したがって、子どもの実態に応じて高める能力を重点化し、その能力を中心に高めていくことは効率的な取組といえます。

そこで、まず、実態調査を実施した後、各学年で調査結果を分析し、高める能力を重点化していきます。ここでは、学年研修会を通して、子どもの現状や課題の共通理解を図っていきます。

#### (2) めざす子どもの姿を設定する

<手引 I:Q6、Q7参照>

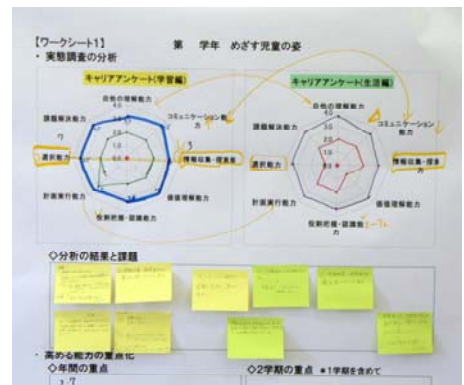


■ 次に、めざす子どもの姿の設定を行います。この姿は、その学年が全ての教育活動でめざすキャリア教育のゴールとなります。

(※詳細は「手引 I:Q6、Q7」を参照)

ここでは、次のような取組が効果的です。

- ① 重点化した能力について、分析の際に明らかになった課題を具体化し、共有する。
- ② ①の課題が解決した姿を考え、出し合う。その際、できるだけ授業場面と関連させた姿を各自で考える。
- ③ 各自が考えた姿をKJ法等を活用しながら、分類・整理し、めざす姿を設定する。
- ④ 「学びをつくり出す4領域8能力(第3章資料1の例)」を参考に、めざす姿が子どもの発達段階に適しているかどうかを確認する。



【実態調査の分析資料】